

世界を牽引し、世界に貢献し続けるWASEDA

グローバルリーダーの育成

卒・修了者の国際的な活躍

QS Graduate
Employability Rankingsの高評価
(世界26位、2年連続国内1位)

学生の国際流動性の活性化

- ・受入留学生 (通年7,000人超)
- ・派遣留学生 (通年4,000人超)
(内、単位取得を伴う日本人留学生2,770人)

独創的研究の推進

QS分野別大学ランキング

- ・世界100位以内：3分野→9分野
- ・世界150位以内：11分野→22分野

成果

国際学界でのリーダーシップ

- ・世界政治学会会長
- ・IEEE Computer Society会長
- ・応用数理国際会議 (ICIAM) 招致

「Waseda Ocean 構想」の3年間の実績

地球規模の課題の解決と未来を創造する研究・教育システムの構築

●先行モデル拠点の構築

- ・国際日本学拠点
- ・実証政治経済学拠点
- ・健康スポーツ科学拠点
- ・ICT・ロボット工学拠点
- ・ナノ・エネルギー拠点
- ・数物系科学拠点 計6拠点

●ネットワークによる人材育成

- ・海外有力大学との国際共同指導
- ・ジョイントスーパービジョン(JS)
- ・コチュテルプログラム
- ・ダブルディグリー(DD)

教育・研究における徹底的な国際化の推進

●国際的に通用する教育

- ・英語学位コース (54コース)
(7学部13研究科に拡充)
- ・グローバル化対応全学基盤教育
- ・学部・大学院一貫教育
- ・オナズプログラム
- ・コースナンバリング完全実装
(25,081科目 100%実施)
- ・海外大学とのジョイントFDプログラム

●優秀な学生の確保と育成

- ・クォーター制の全学標準化
- ・サマースクール・サマーセッション
- ・奨学金支給の入学許可時の伝達
- ・edXオンライン講座登録者数：約2万人
- ・国際混住型学生寮

教員の採用システムと大学運営のガバナンスを抜本的に改革

●トップレベル教員の獲得

- ・国際公募による教員採用
- ・ジョイントアポイントメント(JA)
(延べ8人雇用)
- ・年俸制・褒賞
- ・ダイバーシティ推進

●大学改革の徹底的な実行

- ・PDCAサイクルによる不断の自己改革
- ・戦略的人事枠創設による改革支援
(学部研究科に52人増員枠を措置)
<各学術院の権限と責任の一致>
- ・財政基盤の強化
(東アジア圏ファンドレイジング：
頂新国際集団・百賢財団約11億円)

Waseda Vision 150 推進本部 (本部長：総長)

SGU実行会議

先行6モデル拠点を改革の中核として位置づけ、全学改革を推進

- ・先行6モデル拠点をトップダウンで選定し、資金を集中的に投下し学内改革を先導する
- ・SGU実行会議を中心に、全学事業の推進機関であるWaseda Vision 150推進本部・推進会議を通じて、PDCAサイクルを適切に管理・実行し、確実に改革を実現する

スーパーグローバル大学創成支援の10年間で、改革を加速し実現

スーパーグローバル大学創成支援
「Waseda Ocean 構想」

理念合致

=

早稲田大学 中長期計画
「Waseda Vision 150」

SGU事業期間

H24 H26 H29 H32 H36 H44
第1フェーズ 第2フェーズ 第3フェーズ 継続展開

Waseda Vision 150 事業期間 (H24~H44)

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1 ページ】

戦略的実行体制

■先行6モデル拠点により改革を先導

- ・国際的競争力を持つモデル拠点をトップダウンにて選定して資金を集中投下し、Waseda Vision 150 推進本部のPDCAの下、先行して改革を断行し、その成果や知見を戦略的に「全学に展開」した。
- ・先行モデル拠点の成果をさらに波及させ分野拡大を図るために、7つ目のモデル拠点「グローバルアジア研究拠点」の新設を決定した（平成29年度開始）。

国際流動性の活性化

①受入留学生と留学経験者の拡大

- ・交換留学枠を1,000枠超に増加させ、受入留学生は通年7,000人超、派遣留学生は通年4,000人超（うちSGU指標；単位取得を伴う日本人留学生2,770人）に上り、受入・派遣留学生数は国内トップを継続した。
- ・優秀な学生の海外有力大学への留学に際し、「WASEDA サポーターズ倶楽部メンバーズ基金（寄付金）」の活用により海外渡航費を支援し、海外留学を積極的に促進した。

②ジョイントスーパービジョン（JS）・コチュテルプログラム

- ・将来のJD実現を視野に入れ、海外連携大学との国際共同指導の修了者に両大学長あるいは研究科長名にて修了証を授与するジョイントスーパービジョン（JS）プログラムを構築し、修了生も輩出した。
- ・博士後期課程における共同研究指導の修了者の学位記に、両大学にて研究指導を実施した旨を記載するコチュテルプログラムを構築した（平成29年4月運用開始）。

③英語学位コース

- ・英語学位コースを6学部11研究科から7学部13研究科に拡充した。全学位コース数154コースのうち54コースが英語のみで卒業できるコースとなり、国際レベルでの優秀な学生の確保につなげている。

④クォーター制・ナンバリング

- ・標準的な授業カレンダーをクォーター化し、海外大学とのサマースクール、Waseda Summer Session（平成28年度139人、前年度比2割増）、国際共同研究指導、海外有力教員の招聘などを、多面的に実施した。
- ・ナンバリングについては、平成27年度に100%達成した（平成28年度25,081科目）。

⑤奨学金支給の入学許可時の伝達

- ・平成27年度以降新設した外国人留学生に対する学内奨学金8制度のうち、6制度を入学許可時に伝達が可能な奨学金とし、優秀な外国人留学生の受入を促進した（全奨学金取得外国人留学生のうち入学許可時の伝達数：平成25年度：39.9%→平成28年度：75.5%）。

⑥ジョイントアポイントメント（JA）

- ・平成26年度にJA制度の規程を定め、世界トップクラスの教員を雇用し国際共同指導による教育の質向上を図った。また研究に資する学内助成を措置し、研究促進を図った。（JA教員：延べ8人雇用）

ガバナンス改革

⑦戦略的人事枠

- ・中長期計画「Waseda Vision 150」最終年度の平成44年度に向けて160人（平成24年度比）程度の教員の増員枠を設定した。大学本部が増員枠の採用方針（国際性、多様性、研究力、外部資金獲得等に資する人事）を示した上で、学術院将来計画を総合的に評価し、学部研究科に52人の教員採用枠を措置した。

⑧本事業に投下する大学自己資金の拡大

- ・事業の第2フェーズと位置づけられる平成29年度より、「次期展開」としてさらなる自己資金の投下を決定した。

世界大学ランキングの評価向上

■最新のQS分野別大学ランキングでは、世界100位以内が3分野から9分野へと大きく飛躍した。先行モデル拠点関連分野を中心にランクインし、特に「Sports-related Subjects」は、世界19位、国内1位と非常に高い評価を得た。モデル拠点の先行的かつ積極的な取組みが外部による評価に着実に結びついている。

■QS Graduate Employability Rankings 2017において、本学は世界26位、国内1位と非常に高い評価を得た。国内1位は2年連続である。これは、本学の企業と連携した取組みや卒業生の活躍、そして本学のグローバルリーダー育成の教育が高く評価されたためである。